

9月23日から武漢市で開催された「中国国際機械電機博覧会」にあわせ、大分市からは企業6社を含む12名で構成された「大分市経済ミッション」が武漢市を訪れ、新たなビジネスチャンスを探り活動しました。

第7回中国国際機械電機博覧会へ2社出展

今博覧会は、国務院の認可を受け、国家規模で行われる技術専門分野の国際的博覧会です。9月23日から26日まで開催され、展示面積は35万平方メートルで、参加企業は537社、その内、海外企業は192社で、約10万人が来場しました。

大分市からは、3年前から本博覧会に参加しており、今回は、日本建装工業(有)(株)藤島の2社が出展しました。日本建装工業(有)は提携先である武漢東湖開発区電子工程有限会社と共に出品しました。

次ページに、この展示会に出展した(株)藤島の専務取締役、藤島正夫氏より報告を頂きました。ご参照下さい。

参加者のニーズにきめ細かく対応した視察

今回の大分市経済ミッションでは、上記展示会の出展・見学のほか、各社個別のニーズに対応したきめ細かな視察を企画、実施しました。

中国でのヒートアイランド現象の解消や緑化事業に自社技術が活かせるのではないかと昨年度の経済ミッションに引き続き参加したヘツギ土木緑地建設(株)は、湖北省地質鉱産物局や関係企業からの概要説明の後、武漢市近郊3箇所の鉱物資源の現地視察を行いました。今年2月から武漢市招聘局と連絡をやり取りを続けており、今回のより具体的な視察が可能となりました。今後も引き続き成約に向けて検討していくとのことです。

(株)ユキ商事など他の参加企業の商談も事前に設定

日系自動車メーカー視察



現地工場視察



博覧会開幕会場

でき、精密機器加工、機械部品製造、金型設計関連の現地工場を2社視察しました。両社とも外国との取引経験があり、日本在住10年以上経験のある社長にも出会い、今後期待できそうな要因が増えました。

10月27日から武漢で開かれる第1回中国中部(武漢)文化博覧会事務局との打合せでは、準備及び出展ブース状況について説明受け、大分市及び三和酒類(株)が出展することが決まりました。

また、武漢の都市計画について知りたいという企業には、民間企業が開発した住宅団地やビジネス特区の開発計画のヒアリング、日系進出企業の視察を希望する企業には、日系自動車メーカーへの訪問、武漢でのネットショッピング事情を知りたいという企業にはインターネット関連企業へのヒアリングを盛り込むなどといったスケジュールを組みました。

これら個別の対応は、武漢市の全面的な協力と5月より設置された武漢市事務所(大分市交流拠点)ならびにジェトロ大分等関係機関の協力により実現できました。

試行錯誤の中で本事業を進めていますが、より具体的な商談が増えてきており、両市の企業が相互に利益を享受できるよう事業を進めていきます。

2月末に、大分市経済ミッション

来年2月末に、大分市経済ミッションを編成し、武漢市企業との商談の機会を創ろうと計画をしております。ご興味のある方は、気軽に大分市商工労政課にお問合せください。

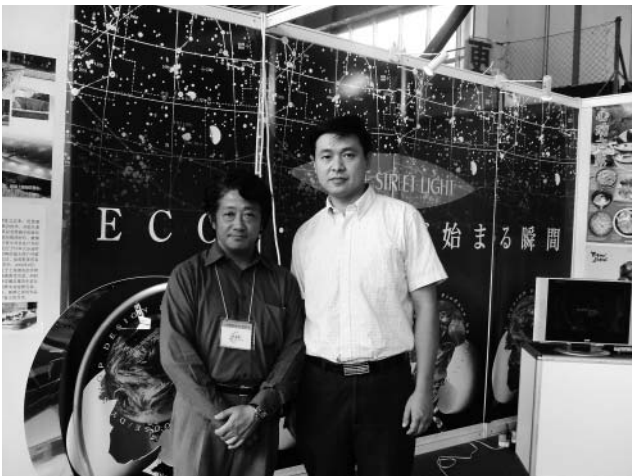
問合せ先

大分市商工労政課 工業係

TEL 097-537-5625

武漢市で開催された「中国国際機械電機博覧会」出展を終えて

株式会社 藤島 専務取締役 藤島 正夫



展示会ブースにて招待した武漢企業の社長(右)と本人(左)

このたび、大分市経済ミッションに参加し、第7回「中国国際機械電機博覧会」に出展いたしました。中国での展示会出展は、今年の夏に蘇州で行われた循環経済博覧会に続き2回目でしたが、本当に困難の連続でした。しかし、それを乗り越えた後には、確かに見えてくるものもあります。今回は、「中国国際機械電機博覧会」に参加した経験を、驚きの連続体験を交えてご紹介させていただきたいと思います。

～中国の展示会出展は驚きと困難の連続～

第7回「中国国際機械電機博覧会」は9月23日～26日の日程でしたので、21日朝からブース装飾をしようと20日夜に現地入りをしました。21日朝、現場についてまずびっくりしたのは、展示会開催日の2日前だと言うのに、「藤島」のブースは枠組みも何もできていなかったことです。出品する製品の高さが通常のブースよりも高いため、若干特別な手配をお願いしていましたが、そんな難しい注文は出していなかったはずですが、その日は仕方がなかったので、予定されていた視察に参加し、22日に仕切りなおしをすることにしました。

さて次の日、あいた口がふさがりませんでした。昨日と全くなにも変わっていなかったのです。あわてて展示会主催側に連絡をして早急の準備進行を依頼、その場を動かずに様子を見ることにしました。朝一に連絡をして、結局ブースの装飾を始められたのが午後3時…。午後4時半から予定されていたレセプションに

間に合わせて何とかぎりぎり終わらせることができました。

展示会開催当日、テレビ局の取材、音楽隊や紙吹雪も用意され、盛大に開会式が始まりました。しかし、肝心の来訪者はほとんどなし。一日目は結局、特に成果もないまま終わり、不安が募りました。しかし、辛抱した甲斐があり、2日目以降は招待していたバイヤーを含め、多くの来場者があり、ブースでは別添写真のように多くの来場者に囲まれる状態。来場者の熱心な質問攻撃に合いました。

このように、中国での展示会は「辛抱、忍耐」がつき物のようです。前日にブースができていないくらいで驚いてはいられません。

～見えてきた今後の展開～

今回の展示会では、LEDの街灯路をメインに出展をし、事前に目をつけていたバイヤーに招待状を送るなどの努力が功を奏して狙い通りの商談をすることができました。また、昨年中国にも設置した実績のあるガラスモニュメントへの問合せも多く、その市場性を確認することができました。今後はLEDとガラスの両面から中国市場を攻めたいと思います。

中国での困難な展示会開催を乗り越え、短期間で中国ビジネスを形にして来られたのも、大分市・武漢市の積極的なフォローがあつてのことと感謝しています。

ここからが実際の契約に結びつける正念場。引き続き、大分市、武漢市の強力な枠組みの中で新しいビジネスが成就させられるよう努力をしたいと思います。



多くの来場者が集まる展示ブース風景